

平成21年 3月議会定例会

平成21年度予算など
30議案を可決



平成21年3月議会定例会は、3月6日から19日までの日程で開かれました。

一般質問は10日と11日に行われ、6人の議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。

また、平成21年度の各会計に係る予算審査特別委員会は、12日・16日・17日の3日間行われました。

議案審議は19日に行われ、提出された30議案のうち、一般会計予算については、情報通信基盤整備事業が減額修正され、他の議案については、原案通り可決されました。

平成21年度 村長所信表明

(紙面の都合で内容は一部省略してあります)

自立の道を選択して4年が経過し、自立プランとしてつくられた「新たな出発プラン」の柱である「ハードからソフト」に意を用い、村の将来に向けての「健全財政」に努めてきました。

将来に向けての基盤整備ということでは、二十数年来の念願であった統合診療所建設を進め、村民の健康づくりに力を入れていくスタートの年にしたいと考えています。

「ハードからソフト」では、村の将来に必要なハード事業は、随時進めていくべきではないか、もって村民の暮らしを更に向上させていくべきではないかとの皆様などからの声も、多くいただいております。

また、情報網の整備も、21年度からの事業開始です。その整備をもって農業の新たな振興はもとより、協働の基盤となる地域コミュニティづくりや一人暮らし、老夫婦の福祉の向上、更に教育にと新たな動きをつくっていく考えです。

対策を予定しています。村独自の対策としては、今後、相談しながら対応したいと考えています。村として心がけるべきことの一つ目に「小さな自治体の有利性」を十分に発揮すること、2つ目は「元氣だ」「よく頑張っている」「飯館村なら」という「飯館村の総合力」いわゆる「ブランド」を高めること、3つ目として、村の活性化の全ての基礎となる村民との協働のあり方にさらに創意と心配りをしていくことが大切だと考えています。

また、一方で近隣自治体や大学等、他団体との連携をつくっていくこと、

に一度という未曾有の大不況の影響が、各企業や村民の暮らしにまでも押し寄せてきており、大変憂慮しています。その中で、いかに村民の暮らしを守っていくかも村の大きな課題でもあり、使命でもあると強く認識しています。

不況対策としては、道路維持補修就労対策を行い、さらに、雇用状況を調査しながら雇用相談窓口を商工観光係内に置き、かつ、緊急経済・雇用対策本部を立ち上げました。

なお、年度内に約300万、21年度に入ってから約3200万円の雇用

さらに、個人的、組織的なネットワークをどう広げよう生かしていくかも、村の将来にとっては重要なファクターであると考えています。これまでの広域市町村という考え方に変わり、今年度から国でスタートした定住自立

村長所信表明

圏構想事業で南相馬市との連携を検討していきます。さらに、福島大学との共同事業や川俣町との事業も考えてまいります。一つ一つ丁寧に、心を込めて、事業を進め、村民のためにそして、村発展のため、努力していきます。

《主要施策》

農政関係

一昨年からスタートした「集落営農」と「農地・水・環境保全向上対策」について、課題はありますが、それぞれ創意工夫を凝らし農家の所得向上に結びつけるように引き続き支援します。

また、「第2期中山間地域等直接支払」も21年度が5年計画の最終年度であり、適正な事業の推進を図るため、今年も協議会に助成しながら農家の投資資金の軽減と生産性の向上を支援します。

「野菜・花卉」の振興ですが、村の地理的・気象

的条件を活かしたインゲン、ホーレンソウ、ブロッコリーの野菜とトルコギキョウ、リンドウ等の花卉については、市場では高い評価を得ていますので、これらの振興を支援するためパイプハウス等の設置をはじめ、土壌改良の客土事業等の連作障害対策を実施し産地化を図っていきます。

さらには暗渠排水事業等を推進することによる振興作物の作付拡大や、「産地確立交付金」を活用した転作作物の支援を引き続き行います。

畜産関係

19年度より行なっている優良雌牛の導入について、村の家畜導入基金協会に1000万円を出資して、30頭の貸付と県の肉用牛家畜導入事業による10頭と合わせて40頭の貸付を予定しています。

また、優良雌牛自家保留事業も継続し、30頭の保留枠の確保を図ります。

畜産技術センターの高性能力牛に限った受精卵移植事業、飯館産牛育種価値立事業も引き続き実施することにより飯館牛の銘柄がさらに確立されるものと期待しています。

有害鳥獣捕獲対策

猪による被害防止の対策として、電気牧柵の設置補助を行います。また、捕獲隊の支援をいただき、ワナの設置と巡回監視により農作物への被害を最小限に抑えるよう努めます。

地産地消対策

昨年に引き続き、村民会議の運営と新規作物加工や米粉パン・飯館牛の給食提供、飯館牛井の取り組み、濁酒（どぶろく）を始めとした農産加工品等の販路拡大支援、さらには事業の取り組み紹介のための情報誌の発行などを積極的に推進します。

商工業支援対策

今年度も引き続き既存企業を含めた企業立地支援に、積極的に取り組ん

でいきます。

特に、菊池製作所については第6工場増築による生産力向上に伴い、雇用増や村民の就労の場として大いに寄与するものと期待しているところであり、今後の操業に向けた雇用計画などを見ながら、積極的に支援していきます。

また、商工業関係では村内の商業活性化に向け、新たに地場産品等振興事業補助としてそば焼酎製造支援、村外イベント等への出店に対する報償、商品券発行事業に対する商業振興補助、及び飯館牛井支援事業補助などを行っていききたいと考えています。

雇用対策

20年度末に国の緊急経済対策による緊急雇用対策事業に取り組んでいるところですが、今年度も緊急雇用創出基金事業4件に加え、ふるさと雇用再生特別基金事業3件の

実施を計画しているところであり、少しでも村民の就労の改善、雇用対策につながるものと考えています。

観光交流対策

もりの駅「まごころ」を拠点とした交流人口の増と活性化対策については、昨年に引き続き、県の原子力等電源地域振興事業による交流イベントを実施します。村の情報発信を始め、村内外の情報交換と人の交流を図り、行楽シーズンを中心に一層充実したイベントの開催をしながら集客に努めていきます。



▲交流イベント「ワクワクまつり」の様子

また、ホームページや、インターネットを介した情報発信のための設備を利用しながら、農産物や特産品の販売額向上を目指していききたいと考えています。

**農地・水・環境保全
向上対策**

21年度で3年目を迎えますが、共同活動の「シバリ」があつて思うように交付金が使えない状況にあり、ほとんどの活動組織で繰越金が出ていることから、交付金の「シバリ」緩和を県に要望しています。21年度も全活動組織が共同活動支援事業を、13地区が営農活動支援事業に取り組み予定です。

林業関係
21年度では、20年度同様県が行っている森づくり塾の参加呼びかけ、担い手不足の解消を図っていききたいと思っています。森林施業については、間伐を中心とした施業を行い、公有林は間伐16・

73畝・枝打ち6畝と18年度に立木売却した七郎内公有林の一部5・63畝に杉の植林、緊急雇用対策として風兼公有林33畝の天然林の抜き切りの施業を計画しており、地球温暖化防止の一翼を担っていききたいと考えています。

また、「木にふれあう学舎」づくり事業として、鉄筋コンクリートづくりである臼石小学校の1階の壁部分と中央会議室部分に間伐材を利用して板張りを行い、児童らが木のぬくもりとふれあう場の提供をするための計画です。

道路整備

前倒しによる20年度線越事業で、豊栄佐須線、大火比曾線、深谷飯樋線、芦原関沢線の改良工事を実施しますが、21年度で村が予定している村道の整備は、向押山田線の改良工事と電源交付金事業による草野飯樋線の舗装

補修の2路線を計画しています。

21年度県営事業での整備計画は、県代行事業として、村道佐須大倉線、過疎基幹農道前田地区、また、林道開設事業桁窪大倉線など、3路線を予定しています。

次に、主要道路整備についてですが、県道原町二本松線の蕨平地内・国道399号の宮仲地内、臼石月館線の菅田地内につきましても、21年度も引き続き工事を進めて頂けるものと思っています。

農道・林道・農地防災関係では、21年度事業としては、国庫補助事業で農道大森地区、県営事業で、農道前田地区、農免農道野手神地区、林道では岡部前乗線、中山間地域総合農地防災事業では、前田地区の平吾入り溜池の改修に向けた管理道路と比曾地区の土留め工、県単補助事業では、林道岩部線が予定されており、

農道3路線、林道2路線、溜池1カ所、土留め工2基の整備が行われる予定です。

また、農道、用排水路の農業用施設等を例年同様に村単独で維持補修の助成を行っていきます。

水道関係

簡易水道事業は、安全・安心・安価で豊富な水道水供給のため、適正な水質管理と効率的な施設等の維持管理に努め、簡易水道の給水区域外の地域の生活用水については、引き続き、さわやか基金による生活用水確保事業により支援していきます。

農業集落排水事業については、未接続世帯の加入を促進して、適正な維持管理を図ります。

情報通信基盤整備

情報通信基盤整備（光ファイバー）事業については、21年、22年の2カ年で村内全域に光ファイバー網を整備します。この整備によって、村の産

業振興と所得の向上、さらには交流人口の増大などが図られるものと大いに期待をしています。

地域公共交通整備

統合診療所や福島交通バス路線の見直し等に対応するため、マイクロス1台を購入し村民の足の確保に努めます。

健康づくり対策

昨年度よりスタートした「特定健康診査・特定保健指導」の受診率の向上に努めます。

健康づくりは、とりわけ生活習慣病対策として、運動と栄養を焦点として、保健師と管理栄養士が連携し、個別指導に重点をおいて取り組んでいきます。

統合診療所

今年度は建設の年ですので、運営を任せる「医療法人秀公会」と協議を重ねながら、平成22年4月開所に向けて慎重に進めたいと思います。

**までいな
健康づくり事業**

2年目にあたり日常的な運動習慣づけを勧めるため、村公民館にフィットネスクラブを週一回開設します。これまでの健康づくり事業や各種教室を卒業した方々を始め、誰でも気軽にできるストレッチやボール等を利用した有酸素運動の場を提供します。

**第3次
飯館村健康増進計画**

21年度から7カ年間の保健計画を策定しました。「自分の健康は自分で守る」ことを基本として、家族、地域、職域、村の役割を明確にした行動計画としました。

後期高齢者医療制度

2年目にあたり引き続き制度のPRに務めていきます。今年度の村の対象者は1212人。徴収割合は特別徴収が808人、普通徴収404人の1212人です。軽減後

の一人当たりの保険料は、県が4万7389円、村は2万2506円の見込みです。

ミニデイサービス

「いきいきヘルスクラブ」いわゆるミニデイは、今年度も16地区の20行政区参加のもとで実施する予定です。

今の元気老人のミニデイは継続しながらも、今後、指導者の養成や出前講座の利用を進め、行政区主体の運営をお願いします。

地域福祉計画

現在は村総合振興計画に盛り込んでいることで本計画の策定を見合わせていました。第4期介護保険事業計画と第2期障がい者計画を策定しましたので、今年度はこれらの計画を網羅する地域福祉計画を策定します。

介護保険事業

昨年度に21年度から23年度までの3カ年計画の「第4期介護保険事業

計画」を策定しています。計画は、これまでの「介護サービス重視」から「介護予防」を重点として、要介護状態にならないよう取り組みたいと考えています。

次に「介護予防特定高齢者事業」ですが、65歳以上の特定高齢者に対して、要介護状態にならないようにするため、通所・訪問により介護予防に取り組みます。

20年度の特定高齢者の対象者は496人です。このうち、本年度の介護予防事業の実績は22人。21年度は80人の予定ですので、今後とも各関係機関と連携して、特定高齢者が要介護状態にならないよう取り組みたいと考えています。

戸籍の電算化

20・21年度の継続事業で、今年の11月7日稼働に向けて順調に進行しており、導入後には、現在戸籍の縦書きから横書き

になり、内容を簡単に理解することが出来るようになります。

また、各種届出に伴う処理時間が大幅に短縮されることから、住民サービスの向上につながると考えています。

ごみ処理計画

一般廃棄物のうち燃やすぐみを南相馬市にお願いする件については、今後とも充分、南相馬市と話し合って進めていくことを確認しています。

南相馬市としては、現在今後の廃棄物処理計画を策定する予定になって



▲ごみ処理のようす

おり、その結果を得て、村としての最終的な方針を決定していきたいと考えています。

交通事故防止及び防犯運動

交通安全運動としては、今年5月10日で達成予定の死亡事故ゼロ1000日を目標に関係機関と常に連携をとって、交通安全の啓発運動等を行っています。

新学習指導要領

平成21年度から、新学習指導要領への移行期間に入ります。小学校での外国語活動については、小学校、中学校のカリキュラムを調整し、中学校の英語指導手が各小学校を巡回できるよう対応します。

また、基本教科の学力を高めるため、各学校ごとに国語、算数などの授業時数を増やし、その他、必要な教材も整え、万全の体制で新制度に臨みたいと考えています。

教育設備関係

大倉方面のスクールバス1台の更新や、先生方が利用するパソコンを整備します。学校で使用する個人用パソコンから、情報が出回る社会問題も発生しており、子どもの情報管理のためにも必要と考えます。

学力向上対策

学力達成マニフェストプランの実施と学力向上プロジェクトチームの設置、中学校への学力向上アドバイザーの継続設置のほか、中学生を対象に夏休みと土曜日に補習授業を実施する新たな事業に取り組みます。

生涯学習関係

20年度に引き続き、県の地域づくり総合支援事業（サポート事業）の補助を受け、食用廃油や古着等のリサイクル講座や各地区に昔から伝わる遊びや歳時記などの調査を行い、「までいライフ」の普及を進めていきます。



▲手づくりろろそくを作る子どもたち

また、村が進める光ファイバー導入に対応するため、国の緊急経済対策交付金事業を活用して、インターネット講習会を開催します。

ゼロ予算事業

「大発見！わたし我が家の宝物」展示事業を実施します。個人、各家庭で昔から保存しているものや家族で大切にしているものなどの「宝物」を展示し、展示者の思いや考え方、「宝物」の意義（価値）を村民の方々に伝え、物の大切さや人のやさしさなどを感じてもらおう事業をしていきたいと考えています。

青少年対象事業

「海洋アドベンチャースクール事業」については、

3年間延長した最終年度に当たりますが、本年度も各小学校6年生に感動が心に残り、感謝を感じとれる体験活動になるよう実施していきます。

次に文化庁の助成を受けての「こども映画鑑賞事業」は、映画を通して命の大切さを感じさせ、親子のコミュニケーションを深める事業にしていきたいと考えています。

また、小中高校生を対象に実施する「ジュニアリーダー育成事業」については、社会人となった時に役に立つような研修的メニューを取り入れ、将来、社会教育活動や地域づくりのリーダーになれるよう取り組みます。

成人対象事業

「青年交流事業」については、実行委員会形式で委員のネットワーク等を活かした企画、立案により、村内外の青年の交流を図ることを目的に実施し、さらには、後継者対策、

少子化対策についても期待をしています。

「男女共同参画推進事業」については、家庭、地域社会等において男女の役割はどうあるべきかなど、講座等を開催しながら学習していきたいと考えています。

また、「人づくり協働研修事業」については、昨年に引き続き、村民と職員が共通の目標に立って行政運営等に取り組む中で、課題解決として研修視察を協働で実施する時に旅費の一部を支援します。

家庭教育支援事業

幼稚園児及び小学生の親や家族の方を対象に、子供の発達段階に応じた家庭でのしつけについて学習する機会をつくり、家庭の教育力向上を図ります。

また、子育て支援団体として、各種事業時の託児サポートを担ってくれる「子育てサポーターの

会」に対して、活動支援を行っていきます。

芸術鑑賞奨励事業

コンサートなどの芸術鑑賞をしたチケットの一部を助成するとともに、芸術鑑賞バスツアーを実施しながら、質の高い芸術文化に触れる機会を支援していきます。

文化財保護

村指定文化財の保護・管理に努めるとともに、3年ごとに実施している「村民俗芸能発表会」を開催し、各地区にある文化財・伝統芸能等の保存・継承をしていきます。

また、広く村民を対象にし、「ふるさと塾」講座を開催し、村にある文化財や村の歴史などの学習会を実施します。

読書活動事業

小中学校の読書活動の推進や「ほんの森の森の森」と連携を密にとり、より多くの人に読書をしていただくために、良書を読んでその印象を自分

村長所信表明・議案概要



▲ふくしま駅伝で力走する飯館チーム

の言葉で紹介する「メッセージコンテスト」を開催します。

社会体育

「村民体育大会」の開催や「ふくしま駅伝大会」「市町村対抗野球大会」などの各種大会に選手派遣をしていきます。

また、日本陸上競技連盟公認のフルマラソンコースを設置し、長距離走の競技レベルの向上を図るとともに、村外の長距離アスリートや愛好者を呼び込み、地域活性化を図っていきます。

財政運営

本村は、自主財源に乏しい村ですが、今までも国県補助事業や、過疎・辺地等の有利な起債による事業の展開を図り、村民の所得向上と福祉の増進に努めてきました。

今議会でも可決された議案等の概要

(紙面の都合で内容は一部省略してあります)

平成20年度 一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額から487万5000円を減額する整理予算です。新たに追加する主なものは、医師確保のための公有財産購入費1000万円、減債基金積立金500万円、農村楽園基金積立金7000万円、介護保険料軽減のための介護保険特別会計繰出金2000万円などです。

また、統合診療所実施設計分1250万円、村

21年度予算編成では、統

合診療所の建設や情報通信基盤整備(光ファイバー)など、大きな事業予定してありますので、厳しく事業の精査をし、財源の効率的、かつ重点的な配分に努めたところ です。

道整備事業1億6404万7000円については、繰越明許費の手続きをとりました。

平成20年度 国民健康保険特別 会計補正予算

平成20年度 診療所特別会計 補正予算

平成20年度 簡易水道事業特別 会計補正予算

平成20年度 老人保健 特別会計補正予算

平成20年度 農業集落排水事業 特別会計補正予算

平成20年度 介護保険特別会計 補正予算

平成20年度 後期高齢者医療 特別会計補正予算

平成21年度 一般会計予算

これらは、各特別会計の整理予算です。

歳入歳出予算の総額を、

42億7010万円としました。これは前年度に比べ、5億6200万円(15.2%)の大幅な増です。

主な要因は、統合診療所の建設及び情報通信基盤整備(光ファイバー)事業な

どです。
(内訳は2〜3ページの予算公表をご覧ください)

平成21年度 国民健康保険 特別会計予算

事業勘定は、歳入歳出総額をそれぞれ8億9132万円としました。これは、前年度に比べ1352万5000円の増で、主な要因は後期高齢者支援金等の伸びによるものです。

診療施設勘定は、歳入歳出総額を3253万4千円としました。これは、前年度に比べ6485万7000円の減で、主な要因は、草野診療所の内科部門を、飯樋診療所に統合するためです。

平成21年度 診療所 特別会計予算

歳入歳出総額を、1億2773万7000円としました。これは、前年度に比

議案概要

べ3166万3000円の増で、主な要因は、草野診療所の内科部門が統合されるためです。

平成21年度 簡易水道事業 特別会計予算

歳入歳出予算の総額を、1億6956万3000円としました。これは、前年度に比べ825万円の減で、主な要因は、公債費の減です。

平成21年度 老人保健特別会計予算

歳入歳出予算の総額を、21万4000円としました。前年度に比べ8104万3000円の減で、主な要因は、後期高齢者医療制度に移行するためです。

平成21年度 農業集落排水事業 特別会計予算

歳入歳出予算の総額を、6087万8000円と

しました。前年度に比べ515万7000円の減で、主な要因は公債費の減です。

平成21年度 介護保健特別会計予算

歳入歳出予算の総額を、5億5642万8000円としました。前年度に比べ9079万円の増で、主な要因は、保険給付費（主に施設サービス給付費）の伸びによるものです。

平成21年度 後期高齢者医療 特別会計予算

歳入歳出予算の総額を6113万4000円としました。前年度に比べ712万2000円の減で、主な要因は、後期高齢者医療広域連合納付金の減によるものです。

飯舘村までいな村づくり 応援寄附条例

ふるさと納税による寄

附をもとに、未来を支える子どもたちの豊かな心を育むために、主に海外の子どもたちとの交流を促進し、人材・資源・心が循環する豊かな地域づくりに資するため、新たに条例を設置するものです。

飯舘村木造住宅 耐震診断者派遣事業 負担金徴収条例

飯舘村耐震改修促進計画により、村内の木造住宅の所有者が、一般耐震診断を希望した場合に、建築士等を派遣して耐震診断を行った場合、負担金の徴収に関し必要な事項を定めるものです。

飯舘村県営土地改良 事業に要する経費の 分担金徴収に関する 条例

県営土地改良事業の分担金徴収に関し、必要な事項を定めるものです。

飯舘村職員の勤務時間、 休暇等に関する条例等 の一部を改正する条例

一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律に基づき、一日の勤務時間を8時間から7時間45分に、15分間短縮されるため、所要の改正を行うものです。

飯舘村 ひとり親家庭医療費の 助成に関する条例

児童福祉法等の一部を改正する法律に基づき、条項の字句の改正を行うものです。

飯舘村 介護福祉条例の一部を 改正する条例

第4期飯舘村介護保険事業計画（平成21年から23年までの3カ年間）の介護保険料を、それぞれ所得に応じ改正するものです。平均月額額は3761円で、第3期の保険料に比べ576円の引き上げとなります。

飯舘村過疎地域 自立促進計画（後期） の変更

新たに、ふるさと林道緊急整備事業として、岡部前乗線の整備（L1900m）及び村の公共交通確保のため、コミュニティバス1台（29人乗り）を購入するものです。

飯舘村産地形成促進施設 の指定管理者の指定

「もりの駅まごころ」を、平成21年4月1日より1年間、引き続き飯舘村振興公社に指定するものです。

《報告》

福島県市町村総合事務 組合を組織する団体数 の減少及び福島県市町 村総合事務組合の規約 の変更

総合事務組合に加入している1団体の名称変更及び、1団体の脱退に伴う規約の変更です。

追加議案

教育委員会委員の任命について

村長村政報告

(紙面の都合で内容は一部省略してあります)

新春村民の集い

1月18日に村公民館で開催しました。

当日は、村民などおよそ120人の方々にご出席をいただき、本村ならではのユニーク内容による新春を祝いました。



▲新春を祝った集い

ひろせかなめ
廣瀬要人氏（南相馬市原町区）を教育委員として任命したいので、その同意を求めるものです

村の「10大ニュース」の第1位は、飯館中学校のやったね！実行委員会による「沢田知可子コンサート」こころの贈り物に生徒らが感動」。第2位には、「までいな次世代育成村民債900万円などで、学校バス購入」。第3位は、「相馬農業高等学校飯館校誕生」が入りました。

国内外の暗いニュースが多い中、村の10大ニュースでトップテンに入ったものは、いずれも明るく希望の持てるニュースが多かったようです。

村税の収納状況

平成20年度村税の収納状況については、ほぼ前

年並みの収納率となっておりますが、現年度分の収納率が伸び悩み、依然として厳しい状況にあり、村税は村の根幹を成す重要な自主財源ですので村の財源確保のため、今後とも納税の啓発と収納率の向上に努力します。

ごみ処理

一般廃棄物の処理については、現況の最終処分場の延命化を図るため、燃やさないごみの減量化を図ることにしています。

現在使用している燃やさないごみ袋を2種類に分けることにし、一つは、リサイクルにならない廃プラスチック類の袋として、もう一つは、現在の燃やさないごみの袋として使用します。

このリサイクルにならない廃プラスチック類の袋は、ごみ袋販売店において3月から販売しており、今年4月1日より実施する計画です。また、現在

の最終処分場に投棄されているごみの中から、廃プラスチック類を分別し、全体の埋立て処分量の確保を図るために、緊急雇用創出基金事業を使って実施しているところであり、少しでも効果が上がればと期待しています。

男性産休シンポジウム

2月25日、村公民館で「男性産休シンポジウム」を開催しました。これは商工会が福島県子育て応援交付金事業を活用し開催したものです。

シンポジウムは、県立医大藤野美都子教授から「パパの育児・真の男女平等社会へ」と題してご講演をいただきました。次に県職員の戸城和幸さんから育児休暇の実践報告をしていただき、続いてナイスパパ表彰を行いました。最後には県立医大の藤野教授、県職員の戸城さんを囲み、男性がいかにか育児に参加すべきか



▲育児について語ったシンポジウム

教育講演会

の意見交換をしました。

2月28日、飯館中学校と村PTA連絡協議会主催による福島県子育て応援交付金事業を活用した「子どもの生活と学習を支える食生活」と題した教育講演会を開催しました。東京農業大学教授の小泉武夫先生に講演いただきました。講演会の後には、小泉武夫先生を囲み学校給食の大切さと、地産地消の取り組み方についての意見交換をしました。

農政関係

世界的規模による急激な原油価格高騰対策の支援策として、昨年に引き続き葉たばこ乾燥・水稲収穫乾燥・冬期間の施設園芸用灯油等の燃料代に対して値上がりした分の半分の助成を計画していましたが、燃料価格も19年以前の価格に戻って安定しており、葉たばこの乾燥作業を除き助成額が減少する見込みです。

次に、21年産米の配分目標数量が、昨年12月に県より示されました。生産目標数量は4324ト、作付面積は899ヘクタール、前年度に比べ9.8％減少しました。

国では、現行の「産地づくり交付金」事業については21年度までとしておりましたが、水田等の有効活用による、自給率の向上に結びつく作物の需要に応じた生産拡大を推進するため、「産地確立

交付金」と事業名を改め、期間を23年度までとして、新たに「水田等有効活用促進交付金」を設けていきます。

また、国では20年度の補正予算により「水田最大活用推進緊急対策」として20年度の生産調整を実施し、更に21年度の生産調整の達成を確約する農家に対し水稲作付面積に応じて、10％当り3000円を、地域協議会を通じて各農家に交付金を交付することになっています。

19年は年間4頭の猿を捕獲しましたが、本年はこれまで19頭を捕獲していますので、この事業の効果に着実に現れていきます。

労政関係

世界的な企業の経営悪化により、我が国でも失業者数が大幅に増加し、国をはじめ対策に苦慮しているところですが、村内に於いても、昨年末に一部の企業が撤退し、失業者が出ています。職種を問わず経営危機に陥る企業が増えています。

村としても国の基金事業を受けての緊急雇用創出基金事業として、村民の森「あいの沢」の公園美化事業をはじめ、公有林整備事業、プラスチック資源リサイクル分別事業など、3月に1ヵ月間の就労ですが、20人程度の失業者の雇用対策事業に取り組みました。

鳥獣被害防止 特別措置法

19年の2月から施行され、村でも飯館村有害鳥獣被害対策協議会を設置し、「平成20年度飯館村鳥獣被害防止計画」を作成しました。これに基づいて鳥獣被害防止総合支援事業を国に申請し「箱わな」6基を購入し、昨年の11月から被害の多い地区に設置していました。

もりの駅まごころ

昨年11月1日にはオープン1周年を迎え、計画に沿ったまずまずの実績となっています。現在は冬期間の営業ということもあり、農作物の出荷量が減り、客足が鈍っておりますが、2年目という事もあり、昨年以上に生産農家を始め関係者の協力により、漬け物をはじめ新たな加工食品の販売などを行いながら、集客及び売上向上に努めています。

また、県の原子力等電源地域振興事業による交流イベント事業「いいたてまでい流情報・交流事業」についても、2月14・15日の2日間「農の始めの祭典」を開催し、村に伝わる正月料理の再現や、新たな加工品・料理の提案と試食会などを行いました。

農林土木関係

台風の上陸がなく穏やかな年でしたが、昨年の4月18日・19日の270ミミを記録した大雨による農地等の災害は、報告を受けたのが41カ所でしたが、村単補助該当26カ所、非該当15カ所でした。その内の村単補助の20カ所については完成しており、残りは現在着工中です。

農道については、ふろさと農道緊急整備事業飯館地区が今年度で路盤工は完成しますが、舗装工事が繰越しとなる見込みのようです。農免農道整備事業野手神地区は、現在橋梁工事を行っており、今年度で1期工事が完成となります。

一般農道整備事業前田地区は、今年度はガードレールの敷設だけでしたが21年度から本格的に工事着手となる予定です。基盤整備促進事業大森地区は、今年度用地測量が完了し、一部用地買収に入りますが、21年度には

用地買収が完了し、一部改良工事に着手する予定です。

農地・水・環境保全 向上対策

20地区の保全会が共同活動を実施し、13地区の保全会が営農活動を実施しています。営農活動は、実績での交付金支払いですが、共同活動は毎年全額交付されますので、年々繰越額が増えている状況にあるようです。

就労対策支援事業

12月より、道路（国道・県道・村道・林道・農道）の側溝の土砂上げ及び法面の支障木伐採作業を行政区に委託して実施いたしました。2月末現在、9行政区で述べ人数1106人（1人当たり平均8日間）就労しました。予算ベースで63%の執行です。残事業につきましては3月末までに完了する予定で進めています。

除雪

12月27日、28日の2日間、低気圧の影響により大雪となり役場付近で積雪17センチとなり、早朝より一次路線の除雪と行政区委託による二次路線の除雪を行いました。29日には、強風による吹溜りができて、通行に支障がでたため除雪を行いました。

また、1月9日午後から降り始めた雪が10日朝には役場付近で積雪20センチとなり、一次路線を除雪、1月31日には朝から降り始めた雪が午後3時には役場前で積雪22センチとなり、一次路線の除雪をしました。その後夜間も降り続け多いところでは40センチとなったため、2月1日には早朝から一次路線、二次路線及び行政区委託による二次路線を除雪しました。

除雪の行政区委託についても、事故も無く地域

密着道路が早急に除雪され喜ばれているところです。

子ども議会

第9回目となる「子ども議会」を1月22日に開催しています。各小学校の6年生が議会の一般質問という形を通して村政の仕組みを学習しました。

「地球温暖化に村はどのように取り組んでいるか」「税金の使い方や優先順位はあるのか」「村の少子化対策はどのようなものか」など村や世界の課題を真剣に考えた質問が出されました。



▲村への提言を採択する子ども議員

成人式

1月13日に、公民館で「平成21年成人式」を挙行しました。式には、凛々しく華やかに着飾った新成人87人が出席し、社会人としての自覚を持つことを誓いながら、大人の仲間入りをしました。

家庭教育支援 総合推進事業

家庭教育学級、子育て講座など8講座を幼稚園、小中学校を会場に開催しました。家庭でのしつけを考え、親子の絆を深め、心豊かな子どもに育てられるように家庭の教育力の向上を図りました。

青年交流事業

昨年度のNPO法人への委託から、実行委員会方式に変え、出合いの広場を12月と2月に村内男性14名と村内女性14名の28名の参加を得て開催しました。今後は、参加さ

れた方々と継続的な交流ができるように実行委員会です。

男女共同参画推進事業

「男性・女性 共に生かす合う関係づくりセミナー」の講座を1月から2月まで参加者延べ71人で3回開催しました。

夫婦お互いを生かし合う関係づくり、家庭、地域や職場など生涯を通じた男女共同参画づくりなどワークショップを取り入れながら身近な部分から考える事業として実施しました。

総合型地域スポーツクラブ

住民の健康と体力の維持増進を図るため、スポーツ教室、スポーツ大会、ウォーク大会等の各種事業を実施しました。

今後も、日常的に実践できるスポーツや運動を普及し、多くの村民が体力の維持・増進が図られるよう進めていきます。